

オンライン P T A 総会・年次総会
令和3年4月29日

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策をする中で教育活動を実施しました。P T A の皆様には、コロナ対応を含め、本校教育活動に御理解、御協力をいただき、改めまして感謝申し上げます。

さて、学校教育法施行規則改正（令和四年四月施行）により、各高等学校において、スクール・ポリシーを策定することになりました。スクール・ポリシーとは、各学校における、グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）の三つの方針のことです。

本校では、グラデュエーション・ポリシーの中で、育成を目指す○の資質・能力を、「つる探」で求めていく力や社会人基礎力等を再整理し、自分に関わる力、他人に関わる力、課題に対する力に分類、規定しました。自分に

良い経験ができたこととと思います。またコロナ過の厳しい中、教職員の皆様には、良き経験ができたことと思われます。また、つる探・中間発表

この一年、皆様のご協力があり無事に会長職を務めることができました。今後の更なる都留高校の発展と生徒の皆さんのがんばりを祈念しまして、一年間のお礼とさせて頂きます。

つる探・中間発表

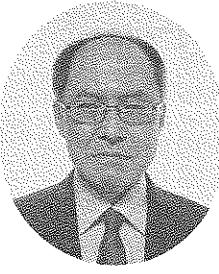
卒業後を含め、様々な場面で活かしてほしいと思います。今後、可能な範囲で、教育活動に反映していく予定です。なお、スクール・ポリシーは、本校ホームページにも掲載されています。

今年度も、新型コロナウイルス感染症対策をする中で教育活動を実施しました。P T A の皆様には、コロナ対応を含め、本校教育活動に御理解、御協力をいただき、改めまして感謝申し上げます。

さて、学校教育法施行規則改正（令和四年四月施行）により、各高等学校において、スクール・ポリシーを策定することになりました。スクール・ポリシーとは、各学校における、グラデュエーション・ポリシー（育成を目指す資質・能力に関する方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程の編成及び実施に関する方針）、アドミッション・ポリシー（入学者の受け入れに関する方針）の三つの方針のことです。

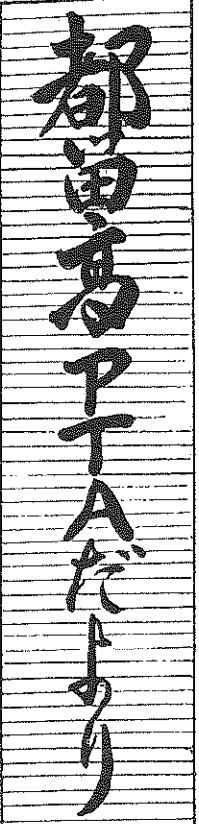
つる探・テーマ検討

P T A の皆様には、今後も子どもたちの成長のために、育成を目指す○の資質・能力を含め、本校教育活動に御理解、御協力をいただけますようお願いいたします。



新しい未来に向かつて

P T A 会長 中 村 真 一



令和4年3月1日発行
都留高校 P T A
印刷株式会社

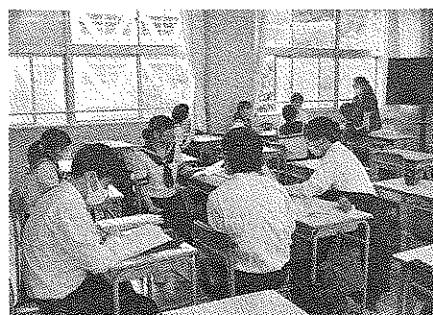


育成を目指す○の資質・能力

校長 廣瀬 浩次



つる探・中間発表



つる探・テーマ検討

子どもの成長のために・・・

二年次主任

神田治雄

保護者の皆さまには、日頃より本校進路指導関係の活動に御理解と御協力を賜り、この場をお借りして感謝申し上げます。

この一年を振り返ってみますと、新型コロナウィルス感染症拡大に伴い、分散登校や時差登校を行つたこともありましたが、生徒たちの様子を見ていると、オンラインでの

放つておけない、他人を思いやる気持ちと正義感に満ちた人物で、非の打ちどころがありませんでした。将来は、経営に苦しむ中小企業を救いたいと銀行員になることを夢見ており、大学では金融学を専門に学ぶことを切望していました。いよいよ進路を決めるという時に、担任の先生から某私立大学の経済学部の指定校推薦を受験してみないかと声をかけてもらいました。その大学、学部、学科はA君の第一志望であり、何度も才一

私が出会つたある生徒との
の保護者のお話です。A君は、
高校入学時より学習と部活動
に熱心に取り組み、定期試験
では常に学年上位、部活動で
も関東大会に出場するなど、
他の模範となる生徒でした。
また、困つていいる人がいると

学び続ける姿勢を持ち続けること

進路指導主事 小澤幸生

オーランキンパンパスや進路講演会、WEB出願やWEB面接にもすっかり慣れたようになります。さらに、授業や「つる探」では、いわゆる「三人に一台パソコン」を使いこなし、仲間と学習の過程や成果を共有することを楽しんでいるようにも見受けられます。このように、生徒たちはウイズコロナの生活の中で、昨年

どもにとつて、自分の人生を左右するかもしれない大学受験、特に一般受験というのはとても高く高いハードルです。それを飛び越えた証は、まさにその先の人生で大きな心の支えになります。それを体験させたかったのです。まさに「可愛い子には旅をさせよ」であります。二つ目は、進路が決まつた自らでした。進路が決まつていらないクラスメイトへの配慮でした。進路が決まつた自分の子どもが勉強に集中しないでいることが、彼らにどれだけ心理的な負担を与えるか分かつていたのです。周囲の人達の気持ちを考え行動できる人間になつてほしいといつ強く願いがそこにありました。

私も高校生の息子を持つ親として、自分の子どもの進路が実現すれば嬉しいのは間違いないありません。しかし、それよりもつと大事なことは、本人が将来、どんな世の中になつたとしても、周囲と協力しながら、身につけた能力を生かし、逞しく生き抜く力を身につけさせることでないかと、この保護者との出会いを通して改めて考えさせられました。子どもの成長のために何ができるのか、私自身教員として親として、もう一度しつかり学び直したいと思つた、大切な出会いでした。一年間、三年次の教育活動に御支援と御協力をいただき誠にありがとうございました。

分かつてていたのです。周囲の人達の気持ちを考え行動できる人間になつてほしいといいう強い願いがそこにありました。

私も高校生の息子を持つ親として、自分の子どもの進路が実現すれば嬉しいのは間違いないありません。しかし、それよりもっと大事なことは、本人が将来、どんな世の中になつた

唱は行なうことはできませんでした。しかし、舞台発表に代わる事前収録による動画制作クラス旗、仮装、合同企画の部門では、ブロッサムごとに競い合い、年次を超えて友情を育みました。制約がある中で、したが、歴代の先輩方に負けない盛り上がりを見せた今年の若鶴祭でした。

今年度も生徒会の行事は二回あります。毎年六月に行われる伝統の若鶴祭を今年は二日間行うことができたものの、感染症予防対策のため、マスク着用での参加はもちろん、教室でのリモート鑑賞により体育館への入場制限を行いました。また伝統のブロック会

生徒会指導主事 木内政美

コロナ禍での生徒会活動

位で男子11位、女子23位という結果を残しました。なかでも陸上部、水泳部、卓球部、空手部などは関東大会に出場しました。また、陸上部は夏に全国高校総合体育大会に出場し、準決勝まで進出しました。野球部、サッカー部も県大会でベスト8に入る好成績を残しました。

一方、文化部においては、八月に開催された全国高等学 校総合文化祭「和歌山大会」に文芸部、新聞同好会が 出場しました。また、吹奏楽部が、 県吹奏楽コンクールで金賞を 受賞したのをはじめ、合唱部、 美術部・放送部・筝曲部・写 真部・書道部など多くの文化 部が、県高校芸術文化祭など 各種大会に参加して成果を上 げています。



体育祭の様子（11月11日）

以上に自分たちにできることを模索しながら工夫し、着実にやり遂げてきました。さて、一月までに、学校推薦型選抜（指定校制・公募制）や総合型選抜で東京都立大学や山梨大学、早稲田大学や国際基督教大学等に百名ほどが進路決定していますが、一月中旬の共通テストを皮切りに、生徒たちは一般選抜において「笑顔の春」を迎えるよう努力を積み重ねているところです。なので、保護者の皆さんと教職員がタッグを組んで応援し続けましょう。

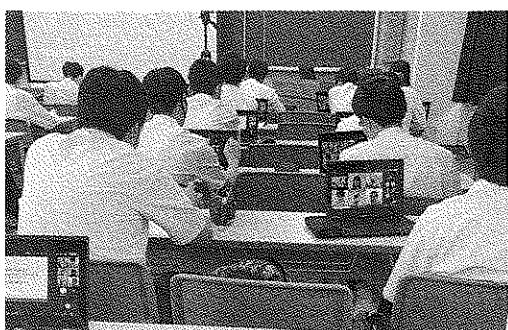
高校卒業時の進路決定は人

昨年に続きコロナ禍であつた今年においても行事を計画を進めることは難しかつたです。五月に予定されていた東京都立大学訪問についても訪問は難しい状況でしたが、担任は熱意と、東京都立大学の高連携室の協力によりオンラインでの実施が実現しました。その後ワクチン接種に合わせるかの様に状況も緩和していく、この行事を皮切りに一年次二年次生の企業訪問や一年次十二月には一年次S Aクラスの東京都立大学への訪問を行いました。二年次は山梨大学出前講座を行いました。生徒は興味を持った分

今後もコロナが収束するごとに祈り、新しい学力観の下、でできる範囲で外部との連携に努めています。

コロナ禍でのS A事業

連携推進主任 加々美 千冬



オンライン大学体験講座（東京都立大学）

R3 「都留高探究プロジェクト」主な研究テーマ

- ・世界遺産としての富士山
- ・高校生が地方自治への関心を高めるには
- ・大月復活大作戦は成功するのか
～大月の自然・登山を利用した観光を考える～
- ・女性の社会進出と少子化の関係性について
- ・高校生の視点で見たL G B T Qについて
- ・男らしさ？女らしさ？
～ジェンダーレスについて考える～
- ・癌と現代社会の関係性
- ・桃太郎で地域を活性化させるには
- ・保護動物の実態
- ・肉に代わる食
～昆蟲食で飢餓を乗り越えろ！～
- ・肉に代わる食～大豆ミート～
- ・高校生とお祭り
～高校生のお祭りへの関心～
- ・コロナウィルスと国民性、S D G sとの繋がり
- ・コロナ禍で障がい者福祉施設と交流するには
- ・「かわいい」は都留高を救う vol.2
- ・世界の貧困と私たち
- ・温室効果ガスによる温度上昇をおさえるには
- ・燃えにくくする素材
- ・電池〔身近なもので電池を作る〕

昨年に引き続きコロナ禍であった今年においても行事を計画を進めることは難しかつたです。五月に予定されていた東京都立大学訪問についても訪問は難しい状況でしたが、担任は熱意と、東京都立大学の高連携室の協力によりオンラインでの実施が実現しました。その後ワクチン接種に合わせるかの様に状況も緩和していく、この行事を皮切りに一年次二年次生の企業訪問や一年次十二月には一年次S Aクラスの東京都立大学への訪問を行いました。二年次は山梨大学出前講座を行いました。生徒は興味を持った分

今年度はS Aクラスの実施が実現されました。昨年度と比べると状況は好転し、行事も多数実現可能となりました。生徒は体験活動を通じ、普段の授業からは得られない学びを感じたと思います。

今後もコロナが収束するごとに祈り、新しい学力観の下、でできる範囲で外部との連携に努めています。



中間発表 発表後の質疑応答



中間発表

令和三年度「都留高探究プロジェクト」について

総合企画係 久保寺 恵美

体験活動を軸とした本校独自の課題研究プログラム「都留高探究プロジェクト」（つる探）では、一・二年次生全員が七十人のグループに分かれ、周りの人や環境との調和を図りながら、たくましく生き抜いていく力をそれぞれの新たなステージで磨いていくことを願っています。

今年度はS D G sの視点からも問題意識を持ち、様々なテーマで探究活動を行いました。今年度はS D G sの視点からも問題意識を持ち、地域や社会、世界が抱える問題や、問題解決への道筋について考察し研究を進めました。新型コロナウイルスの影響で、施設訪問や体験活動が制限された時期もありましたが、大月市で開催された桃太郎サミットでは桃太郎の紙芝居を披露したグループもありました。九月から三人に一台のP Cが導入され、全グループが一斉にP Cを活用して発表資料の共同編集等をすることが可能になりました。大月市議会の傍聴や大月市の福祉施設訪問、地域の資料館見学など、「つる探」をきっかけにして生徒が地域に出て、地域について学ぶ活動へとさらに発展していくよう、学校一丸となつてサポートしていく所存です。保護者の皆様方にも引き続き、本プロジェクトへのご理解・ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

学校評議員の役割について

PTA女性部長 小幡瑞穂

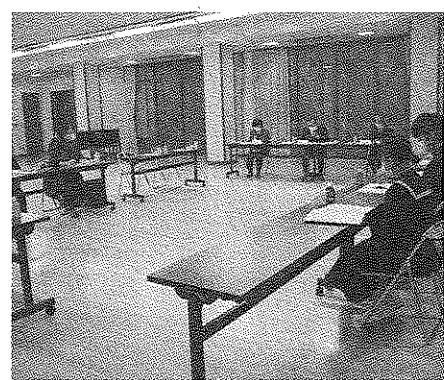
女性部長として学校評議員の一人に加えて頂いています。十月二十一日に行われた学校評議員会では、つる探の「高校生が地方自治への関心を高めるためには?」「『かわいい』は都留高を救う VOL. 2」というタイトルで二つの発表を見せて頂きました。

どちらのグループもそのテー

マに沿って実際に行動しその結果をわかりやすく発表していました。生徒が興味を持ったテーマについて探究してい

る内容が、いつしか学校や地域の思いへと繋がっているようで感慨深く聞きました。発表後の懇談会でも、地域と連携した学びの魅力は、生徒が学校で学んだことを生きて働くものとして發揮できる体験であると、評議員のなかからお話しがありました。人から教えられることだけが勉強ではなく、自分で考え行動することも勉強ということを改めて実感しました。

PTA新聞や都留高校のH



SDGsに貢献するフードドライブ活動

大月東支部長 卵月身知子

今年度、六月に第六回、十一月に第七回と二回にわたって、都留高フードドライブ活動が実施されました。フードドライブとは、家庭にある眠つ

ている食品を持ち寄り、フードバンク団体を通じて生活困窮者や支援施設等に寄附する活動です。

昨今、新聞やネットニュース記事でよく見聞きするようになつたSDGs。フードドライブ活動は、食品ロスを減

らすだけでなく、他の社会課題解決の一歩に繋がっています。

PTA上野原支部と大月東支部は学校から回収所（夏は南アルプス市フードバンク山梨、冬は大月市社会福祉協議会）まで、生徒の代表と一緒に食品を中継する輸送のお手伝いをさせていただきました。食品が詰められたたくさんの段ボール箱を車まで運ぶ生徒の姿を見ながら、都留高生のSDGsへの関心の高さを感じることができました。

食品の搬入のお手伝いは、大人の力が必要です。来年度の役員の方には引き続きお力添えをいただき、私もこの活動を支援したいと思います。



卒業生へ贈る言葉 「ピンチはチャンスである」

三年次部会長 福嶋文仁

Pは都留高校の様子を知るよい手立てだと思います。これらを活用し、家庭や地域も連携をとつて生徒の勉強の場をサポートしていきたいと思いました。

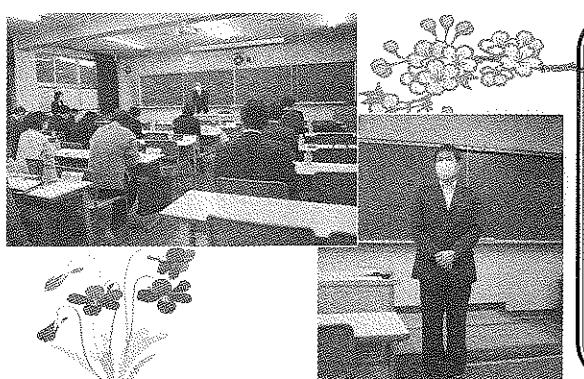
新型コロナによりガラッと変化した高校生活。学校行事の中止や縮小等で辛い思いをしたと思います。

社会に出ると、「ピンチな状況だからこそチャンスが生まれるのだ」と教えられます。

どうしたらこの課題を打破できるかを考え実行すれば自然と結果がついてきます。この時期培つた経験は決して無駄ではなく人生の経験値を上げたと思つてください。

未来を担う都留高校生の皆さんに期待します。

令和三年度役員会の様子



この一年を振り返って

PTA担当 飯島容子

今年は四月に、リモートによるPTA総会を開催しました。教室から質問が出て、視聴覚室の本部から返答するなど、新しい形の総会となりました。夏には、関東高P連大会山梨大会の紙上発表を行いました。

PTA会員の皆様におかれましては、この一年、新しい試みに戸惑われたと思いまが、学校から発信された情報に対し、生徒へのフォローや学校への協力に応えて下さつたり、また、一緒に悩んで下さつたりなど、本当にありがとうございました。

● ● ● ● ●
編 集 後 記 ● ● ● ● ●

本年度も新型コロナウイルス感染症対策のため、PTA活動も行事等が制限されました。しかし、感染拡大防止対策を工夫し、実施できたものもあり、この紙面で御報告できることに安堵しております。本誌発行にあたり、お忙しいなか寄稿してくださいました先生方、役員の皆様には深くお礼申し上げます。

石原奈美